学校用空調設備について

屋内運動場空調設備のエネルギーの選定について

イメージ

市内小中学校の屋内運動場への空調設備は、当初は避難所としての必要性から各区に2校、現在は通常授業においても必要とのことから、段階的に整備が進んでいることは率直に評価する。
しかし、以前から安全性と価格が安い都市ガスの利用を求めており、LPガスとした理由についてあらためて見解を伺う。

教育長　本年度及び来年度に設置する空調設備については、災害時における初期の対応に主眼を置いて選定したことから、熱源は、発災後72時間自立運転が確保できるLPガスとした。

ガス空調における都市ガスの利用について

使用価格が都市ガスに比べて1.8倍～2倍もするLPガスをなぜ使うのかについて疑問が残る。大規模災害時の安全性については、都市ガスは、阪神淡路大震災や釧路地震で破損がゼロだったポリエチレン管を使っている。曲がる、伸びる、腐らない、切れないという特性があり、能登半島地震でも強いことが証明されている。一方、LPガスは道路寸断があった場合はボンベを運搬できず、建物崩壊の場合も危険性が高い。しかし、都市ガスは送り続けることができるという利点がある。こうした都市ガスの安全性や経済性を理解して、ガス導管が整備されている都市部の学校は、今後の空調設備のエネルギーはコストが安く安全性の高い都市ガスを利用すべきと考えるが見解を伺う。

教育長　現在、より効果的・効率的な整備に向け、空調方式や整備手法等について調査・検討を進めているところであり、熱源についても、設置する屋内運動場の状況等を踏まえながら検討していく。

相模原市初パリオリンピック・パラリンピックで金メダル獲得

パリ2024オリンピック女子スケートボート競技で相模原市初の金メダルを獲得した吉沢恋（ここ）選手の金メダル報告会が8月17日（土）相模原市民会館大ホールで開催され、花束贈呈をさせていただきました。また、パリ2024パラリンピック男子ゴールボール競技で金メダルを獲得した萩原直輝選手の金メダル報告会が9月24日（火）相模原市役所ロビーで開催され参加しました。お二人の功績を讃え、このたび創設された『市民栄誉表彰』が11月20日に贈呈されました。

吉沢恋選手

萩原直輝選手

森しげゆきプロフィール

■経歴：
1966年9月
秋田県男鹿市生まれ（58歳）
1985年4月
NEC（日本電気㈱）入社
1992年～2002年
日本電気労働組合役員として活動
2002年12月
連合神奈川・相模原地域連合事務局長
2007年4月
相模原市議会議員 初当選～
2011年、2015年、2019年、2023年、
5期連続当選
■趣味：スポーツ全般（特にラグビー、サッカー）、料理、旅行
■特技：書道、釣り、野菜作り
■家族：妻、長女・長男は結婚して独立

相模原市中央区上溝在住。
相模原で暮らし、相模原で働いて39年！

■現・市議会活動

所属会派	**民主みらい・無所属・地域政党さがみはら『さがみみらい』代表**
所属政党	無所属
常任委員会	こども文教委員会
特別委員会	新しいまちづくりに関するする特別委員会 委員長
その他	相模原スポーツを応援する議員連盟 会長 **全国電機連合議員団 幹事長** 電機神奈川議員団会議（いちょう会）会長 相模原地域連合組織内議員団 会長 小田急多摩線延伸を促進する議員連盟 理事

■これまでの主な市議会役職
市議会副議長
農業委員、民生委員会委員長、環境経済委員会委員長、文教委員会委員長、水源地域対策特別委員会委員長など
■現・地域活動
NPO法人相模原市ラグビーフットボール協会顧問、神奈川県ハンドボール協会顧問、相模原ケータリング協会顧問、下九沢地域振興会会員、相模原秋田県人会会員、上溝公民館青少年部員、石橋伝承芸能保存会（みこし連）会員、認知症キャラバン・メイト、なまはげ伝導士、みんなのさがみはらネットワーク相談役

森しげゆき後援会入会のすすめ　**後援会 会則**（抜粋）…本会は、市政の発展と市民生活の向上のために尽力している森しげゆき氏の政治活動を支援することを本来の目的とし、あわせて会員相互の親睦を深めることを目的とする。※入会金、会費はいただきません。ご入会は電話やメールでも受け付けています。

連絡先　**森しげゆき後援会事務局**　相模原市中央区下九沢1120　電話042-770-5241
E-mail:mori-shige@mori-shige.jp

森しげゆきの最新活動はコチラ
公式Webサイト／森しげチャンネル／日常の活動はFacebookで報告／行事案内は公式LINEで／夕飯づくりはIntagramで

事務局：相模原市中央区下九沢1120　電話042-770-5241　発行責任者：大岩 凌

もりもり通信 Vol.34

2024年11月発行

相模原市議会議員（中央区・無所属）
森しげゆき 市議会レポート

市議会9月定例会議一般質問報告
詳しくは2～4面をご覧ください
能登地震被災地支援レポート

能登地震 被災地支援レポート

本年1月1日16時10分に発災した能登半島地震は、最大震度7を観測し、死者401名、全半壊家屋約3万棟という大災害となりました（10月1日現在）。

森しげゆきは、翌日に救援物資の送付、その後街頭で義援金の募金活動を行うなど側面から積極的な支援を行ってきましたが、現地に出向く環境が整ったため、7月4日～6日に単身・能登でがれき撤去活動などの支援を行ってきました。

能登半島内で営業している一部の宿は、ほぼ復旧業者で埋まっていたため、金沢市内からレンタカーで能登に入りました。能登半島を縦断する高速道路『のと里山海道』は、全線に渡って崩落していましたが、片側が通行可能だったため往路は利用しました（7月下旬に全面復旧）。しかし復路は一般道で渋滞のため、輪島から金沢まで戻るために毎日3時間を要しました。

特に被害が大きかった七尾市、輪島市、珠洲市と被害状況を視察し、ほぼ手付かずだった輪島市でがれき撤去活動を行ってきました。ボランティアを要請した家主は「片付けが進まず途方に暮れていた」とのことでしたので、少しはお役に立てたのかと感じています。途中、立ち寄った輪島市のコンビニでトイレを借りようと思ったのですが、水が出なくて使用禁止でした（店主が自宅のトイレを貸してくださいました）。

さらに9月の豪雨災害でも甚大な被害を受けたことに、重ねてお見舞いを申し上げますが、森しげゆきは今後とも継続的な支援を行ってまいります。

のと里山海道はほぼ全線崩落（森撮影）

輪島市の家屋倒壊現場（森撮影）

令和６年相模原市議会９月定例会議　一般質問《抜粋》

去る９月27日、相模原市議会９月定例会議において、市民の声をもとに、森しげゆき議員が一般質問を行いました。紙面の関係から全文は掲載できませんが、一部を抜粋し報告いたします。

認知症施策について

認知症予防施策について

私の平成26年の一般質問で、タッチパネル式の認知症スクリーニング機器を使って、軽度認知症の早期発見から予防や治療につなげる取組みを進めるよう求め、平成28年から令和４年まで各区に一台、スクリーニング装置を配備していただいたが、どんな使い方をされて、どんな効果を生んできたのか伺う。

市長　各区の相談窓口に配置した認知症スクリーニング機器については、地域包括支援センターへ貸し出すなど、地域のイベントや介護予防教室等で、令和４年までに延べ2,800人に御利用いただいいた。認知症の疑いや認知機能の低下に早期に気づき、適切な支援などにつなげるとともに、認知症の正しい理解が促進できたものと考えており、令和５年９月からは、スクリーニング機器の配置を、全ての地域包括支援センターへ拡充しています。

認知症スクリーニング機器については、７年間で2800人が利用したという答弁だが、一日平均一人という利用者、これで適切な支援ができたのか？ 積極的に利用しなければ、地域包括支援センターに拡充しても同じ轍を踏むことになる。使い方、相談や医療機関に繋げる取り組みについて改善を求める。

チームオレンジの取り組みについて

本年７月から本格的にチームオレンジの活動がスタートした。チームオレンジとは、認知症サポーター等のみなさんと認知症のある人やその家族がつながることで、ともに支えあう活動を広げて、認知症とともに暮らせるまちづくりを進めていくことである。しかし、チームオレンジに登録をする人は月に50人程度だと伺っている。チームオレンジは地域共生社会の実現に向けて重要な一手になり得るが、登録者数を伸ばすために、市が行っていることを伺う。

チームオレンジの証・オレンジリング

市長　登録者を増やすため、「キャラバン・メイト連絡会」や地域包括支援センター等との連携を図りながら、これまでに「認知症サポーター養成講座」を受講している市民や団体、企業などへ、チームオレンジの支援活動につなげることを目的とした「ステップアップ講座」の受講を働きかけるほか、サポーター養成講座の一層の推進を図っていく。

市長の肝入りで市の職員全員が認知症サポーター養成講座を受けるという取り組みになっているが、認知症サポーターである市の職員のチームオレンジの登録者数は何人か？

部長　7月に事業を開始してから、8月末までの登録者数は全体で113人である。市職員の登録人数は把握できていない状況である。10月以降は市職員を対象に、チームオレンジの理解を深めるための「ステップアップ講座」を含めた認知症サポーター養成講座を定期的に開催していく。

児童相談所の機能強化について

児童相談所機能の拡充について

イメージ

児童相談所の一時保護所の居室の個室化及び入所定員の拡大に向けた改修工事を行い、定員が25名から29名に拡大したと承知している。しかし、個室を増やしても一時保護所に入所できない児童もいると思うが、入れない児童は、児童養護施設や里親等に預けていると伺っている。本来、一時保護を必要とする場合は、児童相談所の一時保護所にて専門的に保護をするのが適正であり、一時保護所のさらなる拡大が必要だと考えるが見解を伺う。

市長　近年、小学生以上の一時保護が増えていることを背景に、改修工事により居室の個室化などの対応を行ってきたが、依然として一時保護件数が増加している。このため、職員の確保や、執務環境の整備を含め、課題の整理に努めている。

現在、児童相談所において一時保護を必要とする児童生徒は、昨年度実績で何人で、一時保護所で預かることができず、児童養護施設や里親にお願いしているケースはどのくらいかを伺うとともに、適正規模を伺う。

局長　昨年度、一時保護を実施した児童は563人で、この中で、児童養護施設や里親等に一時保護を委託した児童は259人。本市においては、一時保護所のほか、乳児院、里親、児童養護施設、障害児入所施設など、その児童に適した場所で、一時保護を行っている。一時保護所の規模については、年度より定員を引き上げたが、引き続き、一時保護所を始め、各施設において一時保護を行っていく。

社会的環境の変化等によって増え続ける児童相談所の需要に対して、根本的な原因を解決する必要もあるが、今、手を差し延べている子どもを救うべき、児童相談所機能の強化を早急に図るべきだ。今の児童相談所の場所、敷地では到底足りず、新たな場所を含めて、設置予算を検討すべきだが見解を伺う。

副市長　児童相談所は、一時保護所の個室化などを行ってきた。現在、淵野辺の事務室と、緑区と南区の事務室において様々な事案に対応しており、今後も、児童相談所が果たすべき役割は大きいと考えている。このため、児童虐待相談件数等、児童相談所を取り巻く状況を注視しながら、一つひとつ課題の整理に努める。

改正児童福祉法への対応、児童の個別事案に的確に対応するためには、増え続ける保護児童に対し、現在の職員では対応しきれていないのではないかと感じる。さらなる専門的な職員の配置や職員の増員など、早期に実行すべきと思うが見解を伺う。

市長　改正児童福祉法の施行を受け、一時保護所に配置する看護師、心理職、嘱託医等の確保や、一時保護開始時の判断に関する司法審査の導入に伴う弁護士等の配置、また、様々な相談に的確に対応するため、社会福祉職の職員の中から、児童・家庭の相談支援に専任する職員を配置するなど、専門的職員の更なる拡充に努めている。

シティプロモーションについて

大規模野外音楽フェスティバルについて

昼から夜までの長丁場になるイベントだが、参加者が飽きずに楽しめる仕掛けづくりや準備状況、臨時トイレや救護関係準備について伺う。

市長　現在、主催者により、来場者に楽しんでいただくステージ以外のイベントも検討されている。また、トイレや救護関係は、相模原ギオンスタジアムの設備等を活用するが、不足が予想されるものについては、臨時に増設する手配を行っている。

当該地域は何といっても交通の便の悪さが課題だ。公的交通機関との接続や臨時バス、周辺駐車場の状況や公園利用者との関係、道路渋滞対策はどうなっているかを伺う。

市長　主催者において、公共交通機関や警察との協議を踏まえ、交通渋滞を回避し、会場への交通手段を強化するため、市内の複数の駅や臨時駐車場等と会場を結ぶシャトルバスの運行を予定している。また、公園駐車場の一部がフェス会場として使用されることから、市においても広報さがみはらや市ホームページなどを通じて、事前に幅広く周知し、会場周辺の混乱回避に努める。

今年の音楽フェスは、予定チケットの完売とのこと、好評だと感じている。市民から既に来年度以降の引き続きの開催を願う声が多く届いている。来年以降の開催の考え方と、相模総合補給廠返還地での開催を引き続き交渉すべきと考えるが、見解を伺う。

市長　主催者は、野外音楽フェスの開催結果を踏まえ、総合的に勘案し、実施時期や会場も含め今後の開催について判断されるものと思う。市としても、主催者の意向を尊重しながら、引き続きの開催に向けて協力していく。

市が積極的に開催のお願いをするとともに、相模総合補給廠返還地での開催を国に交渉すべきだ。

わくわくする相模原の具体的戦略について

リニア駅周辺開発にロボット産業や、新たな産業拠点等、必要なことはよく理解しているが、このことをもって、降りたくなる駅にはならない。むしろ、業界として降りなければならない駅にするべく取り組み強化を図るべきだが見解を伺う。一方、降りたくなる駅というのは、観光やテーマパークや大規模イベントの開催など、大規模な集客が見込め、それに見合った多くの飲食店や宿泊施設があることではないと考えるが見解を伺う。

質問する森しげゆき（議会中継より）

市長　本地区は、国内外から広く人材や技術が集まる先端技術の拠点を形成することとしているが、今後の具体的な企業誘致の方策については、まちづくりの進捗も踏まえつつ、全庁的に検討を行っていく。降りたくなる駅については、観光や商業だけでなく、多様な都市機能の誘導を図り、総合的に魅力を高めていきたいと考えている。

わくわくする仕掛けづくりは、まずは子どもが行ってみたいと思うかどうかが重要ではないかと考える。東京ディズニーリゾートの規模までいかなくても、私は以前にJAXAがあることから本会議で宇宙のテーマパーク設置を提案したが、相模湖MORIMORIやキャンプ場は橋本からは遠く、他に子どもがわくわくする、降りたくなる取り組みは考えられないかを伺う。

市長　将来を担う子ども達が訪れたくなるまちづくりは、まちの活性化や賑わいの創出に繋がるものと考える。本市を含めた「さがみロボット産業特区」には、JAXAをはじめ、子ども達にとって夢のある産業や研究関連施設の集積が進んでいることから、実際に見て、触れて、体験し、未来を身近に感じることができるような施設の誘致について、官民の連携により、研究していく。

スポーツ施設の整備について

屋内スケートボードパークとアイススケート場について

イメージ

市内初のオリンピック金メダリスト吉沢恋選手の金メダルで盛り上がり、屋内のスケートボードパークの整備がプロジェクトチームによって検討されているのは承知している。一方で、アイススケート場の閉鎖が予定され、市民の混乱を招いている。仮に屋内スケートボードパークを検討するにあたっても、クラウドファンディングを活用した民間整備となるのではないかと推察するが、屋内スケートボードパークとアイススケート場の再整備を、淵野辺公園地域に一体的に考えることよって、クラウドファンディングも一層盛り上がるのではないかと考えるが市長の考えを伺う。

市長　屋内スケートボード練習場については、夢COCOプロジェクトにおいて環境整備の検討を進めている。アイススケート場については、民間アイススケート場の実現可能性調査を実施しているところである。引き続き、クラウドファンディングの活用も含め、効果的、効率的な手法について検討を進める。

市体育館の整備について

以前も提案しているが、市役所向かいにある市体育館は老朽化し、閉鎖することは決定しているが、跡地利用については決まっていない。一方で、武道場を求める声も依然強く、全てを包括した中で、市体育館跡地に、体育館と武道場、会議室等一体整備した高層階の建物を整備することを求める。屋内スポーツのホームタウン化を目指している団体もあり、ぜひ民間活力も含めた整備についての検討を求める見解を伺う。

市長　現在の市体育館ついては、総合体育館や北総合体育館を代替場所として活用できることから廃止を決定したもの。新たな施設の整備ついては、今後、必要に応じて検討していく。

（次ページへ続きます）